

最近の韓国における

関東大震災時朝鮮人虐殺の追悼活動

金 廣烈 光云大学校国際学部 教授

韓国社会における事件への関心の高まり

講義概要

私は韓国における関東大震災時の虐殺事件犠牲者の追悼活動が、最近までどのような形で行われて来たのかについてお話しします。

韓国在住者による関東大震災時の朝鮮人虐殺事件の追悼活動は、2007年に「1923韓日在日市民連帯」（以下、1923市民連帯）というキリスト教系の市民グループによる試みが最初ではないかと思います。ここで私があえて「韓国在住者」と言ったのは、1945年8月15日の解放直後の時期に、在日の代表による追悼活動が韓国であったという記録を見たことがあるからです。韓国における追悼活動への理解の前提としては、韓国社会一般の歴史認識と虐殺事件の捉え方を繋ぎ合わせて考える必要があると思います。

1923年日本の虐殺事件に焦点が当てられるまで

現在においても、韓国人一般の自国近代史についての主な関心は、植民地支配させられたこと、つまり帝国主義侵略へ抵抗した独立運動の歴史にあると言えます。ただ、政治的民主化の以前は日本に対して近代史関連の批判的な抗議は行いにくい環境にありました。

それが、民主化が実現された1980年代の末頃から、徐々に自国の近現代史を見直そうとする運動が拡散しました。そのなかで特にアジア太平洋戦争時に強制動員され被害を受けた人たちが、日本の裁判所で補償要求の訴訟を起こしました。こうしたことが国内で報じられると、その事実への関心が徐々に広まりました。

ほかにも、8.15の解放以後の現代史における不当な殺傷事件も見直そうとしました。朝鮮半島は1945年8月の植民地解放直後から冷戦対立の影響を直に受けた結果、南北分断という形で2つの政府が生まれ、1950年に戦争が起こりました。戦争に至る過程で、あちこちで虐殺を伴う事件が多発します。なかでも有名なのは済州島の四・三事件です。朝鮮戦争のなかで起こった一般住民の人命被害もかなり多く、特に軍隊による虐殺事件が目立ちます。

そういう事件が近現代史見直し運動のなかで浮き彫りになりました。そして2000年代以降に時限立法である特別法によっていわゆる「過去史真相糾明作業」が行われます。四・三事件を含めてさまざまな惨事に対して真相糾明目的の委員会が政府の傘下で設立されました。韓国では2000年代に入ってから2010年代の半ばまで、こうした時限立法による委員会が多く設立されて活動しています。そういう流れのなかで、1923年日本で起こった関東大震災時の虐殺事件の真相究明に対しても関心が高まったと思います。

真相究明活動と新しい追悼会の始まり

真相究明に向けた立法への取り組み

冒頭で言ったように、2007年にキリスト教系の市民団体によって関東大震災時の虐殺事件の追悼会が開かれた以来、追悼会は毎年のようにキリスト教の教会で礼拝を兼ねた形で行われました。ただそこへ一般人の参加は容易ではなかったと思われます。

ところで、韓国では2014年ごろから関東大震災時の虐殺事件の真相究明を目指す活動があったので、それについて述べておきたいと思います。

2014年、1923市民連帯の金鐘洙牧師と数人の研究者及び法律家などを中心に、韓国政府の次元で虐殺事件の真相究明の調査を行おうとする「特別法制定運動」が始まりました。当時韓国の近現代史見直し運動の流れを汲む動きだったと思います。その特別法とは時限立法で期間が決まっています。およそ3年、あるいは5年程度の期間を決め、その期間のうちに対象事件の被害の申請を受け、事件の真相を究明するため集中的に調査をするものです。

特別法が制定されるとそれを根拠に政府傘下に委員会が設立されます。委員会にはさまざまな公務員や関連の歴史研究者、市民団体の活動家などが所属し、真相究明目的の調査が行われることになります。それを目指して、2014年から関東大震災時の虐殺事件の真相究明調査を目的とする特別法制定運動が始まったのです。しかし、2014年度に韓国の国会で関連法案は発議

されたが、当時の国会議員の任期が終了する 2015 年度までその特別法案は国会の本会議で審議されませんでした。そして自動的に廃案になったのです。

「追悼する会」の発足と公の場での初の追悼会

上述した経験をふまえて、2016 年には従来と違った形の追悼式を試みる動きが現れます。2016 年 2 月、キリスト教系の団体であるシアル財団本部で、一般向けの追悼会を目指す「1923 年に虐殺された在日韓人を追悼する会（以後、「追悼する会）」というグループが発足しました。その主たるメンバーは私を含む数人の歴史研究者、2 名の在日コリアン（映画監督と関東大震災時虐殺事件関連の活動家）やシアル財団の関係者でした。

そして、2016 年の 8 月 19 日から 20 日までの 2 日間に、「追悼する会」は一般人や観光客が行き来するソウル市庁や景福宮の手前にある光化門広場で、関東大震災時の朝鮮人虐殺犠牲者の追悼行事を行いました。

8 月 19 日には、ソウル市庁の市民ホールで、日本の関東各地で長らく追悼調査活動をしていた市民団体の代表を招待し、話を聞く場を設けました。翌 20 日には光化門広場で追悼儀式を行い、初めてキリスト教、仏教の他にも、韓国の伝統的な民族宗教である天道教の 3 つの宗教団体合同で虐殺犠牲者の追悼会を行いました。キリスト教側では韓国聖公会の神父が参加しました。



写真 1 公州鳳縣里喪輿グループのサンヨモシム

この 8 月 19 日、20 日にかけて行われた追悼会は、誰でも参加できる形で行われた追悼会でした。19 日には、偶然ソウル市庁に見学に来ていた高校生・中学生の団体が飛び入りで参加しましたし、20 日の光化門広場での追悼

会は、写真 1、写真 2 で見られるように、通りかかる一般の人たちや観光客も自由に参加できる形で実施しました。

写真1は、全羅南道・公州の伝統行事グループがやったサンヨモシムです。「サンヨ」とは韓国の伝統葬式に使う神輿みたいなものです。



写真2は死者の霊を慰める伝統的な舞です。写真の白い紙は死者の霊を表しているノクチョンというものです。踊っているのは千葉観音寺の鐘楼を建てた沈雨晟（シム・ウソン）さんで、この分野の専門家です（数年前に他界）。

2016年8月20日、韓国の光化門広場で開催された伝統様式の追悼行事には、韓国の多くのマスコミ関係者が取材に来て記事化してくれました。それによって、韓国社会一般に関東大震災虐殺事件に対する認識の輪が少しは広まったと思います。

写真2 ノクチョン舞い(널전춤)

公の場で追悼集会を開いた背景

なぜ2016年に上記のような形で追悼会を開催し、マスコミに取材を呼びかけたかという点、この行事を通じて「いったい1923年関東大震災時の虐殺事件とは何なのか」について、韓国社会で考えるきっかけになればと思ったからです。

その背景としては、2013年から2016年まで日本において高揚した排外主義的な傾向、つまり在日コリアンへの嫌がらせとヘイトスピーチが非常に高まっていたことがあります。それは在日コリアンへの人権侵害でもあり、生存権を脅かす行為でした。嫌がらせとヘイトスピーチを行う彼らは在日コリアン受難史の象徴的な事件である1923年関東大震災時虐殺事件をなかったことにし、「それは嘘だ」と主張します。

しかし、深い憂慮として、そのようなヘイト行為は、1923年の関東大震災時に虐殺事件を起こしたデマや流言飛語などと通底しているということです。つまり現在の在日コリアンに対しても1923年同様の脅威になりうることです。そのような危機感から「韓国での追悼活動をより公の形で行ってはどうか」という認識が生まれたのです。

2017年以降の追悼活動

合同追悼会

その後の2017年から2019年に行った追悼活動についてご紹介します。2017年8月25日には、1923市民連帯がソウルのキリスト教会館で追悼行事を開催しました。その翌日の8月26日には、1年前に光化門広場で追悼会を開いた「追悼する会」がソウルの天道教本部の中央教堂（写真3）で追悼式と学術会議を行いました。




写真3 追悼式と学術会議が行われたソウルの天道教本部の中央教堂

追悼儀式には、1年前と同じ型で韓国聖公会の神父がキリスト教を代表して参加し、仏教の僧侶と天道教の幹部とともに死者の霊を弔う追悼儀式を行いました。追悼行事のあとは、韓日民族問題学会とともに学術会議を開きました。つまり、2017年も2つの団体が別々に追悼会を開いたのでした。

ただ、2018年になって、従来のように2つの団体が別の追悼式を行うことはやめたほうがよいと思い、「追悼する会」の共同代表である私が1923市民連帯代表の金鍾洙牧師に「合同の追悼式」を提案しました。その結果、同年8月30日の午前10時からソウル市庁の市民ホールで、合同追悼式が開催されました。そこには民族問題研究所という市民団体も加わりました（写真4）。

**1923
간토(關東) 학살희생자
제95주기 추도행사**

초대합니다



일시: 2018년 8월 30일 오전 10시
장소: 서울시민청 지하 2층 태평홀

1923년 9월, 일본의 군대, 경찰, 민간자경단에 의해 6천 여 재일동포들이 무참하게 학살 당했습니다. 그러나 지금까지 일본정부는 진상조사는 커녕 역사를 은폐하고 왜곡해 오고 있습니다. 최근 고이케 도코도지사는 작년에 이어 올 해에도 학살희생자들을 위한 추도사를 거부하였습니다. 2020년 도쿄올림픽을 앞두고 간토(關東)학살사건이 있었다는 사실 자체를 부정하려는 반역사적 행태를 보인 것입니다.


한국정부의 단호한 대응이 필요한 때입니다. 올 해는 1923년 간토 학살사건의 95주기를 맞이합니다. 이제 한국의 종교시민사회단체들은 이 추도식을 통해 희생자를 위령하고, 일본의 국가책임을 묻고자 합니다. 억울한 죽음을 기억하고 역사적 교훈을 되새기는 자리에 함께 해주실 것을 간곡히 청합니다.

초청하는 단체

1923간토한일재일시민연대, 1923년 학살당한 재일한인추도모임, 만인민색연구자네트워크, 민족문제연구소 생명선교연대, 예수살기, 천도교중앙본부, 한국기독교장로회간토진상규명소위원회, 한일민족문제학회

참가단체

강제동원 및 대일과거사문제해결을 위한 공동행동 소속단체
기독교사회선교연대회의 소속단체



간토(關東)학살희생자 제95주기 추도행사 준비 사무국 문의전화: 070-4607-3748 / 010-5382-2406

写真 4 2018 年合同追悼式のパンフレット

それから、2018 年 8 月 14 日には、韓日民族問題学会が政府機関の独立記念館とともに「解放後における関東大震災時に韓国と中国両国人の虐殺に対する真相糾明活動の展望」というテーマで、関東大震災時の韓国人・中国人虐殺がどのような形で行われたか、その追悼あるいは真相究明活動はどのような形で行われたかを検討する国際学術会議を開きました。中国から関連分野の学者を招待し、日本からも研究者 3 人を招待しています。

写真 5はその国際学術会議の写真です。中国人虐殺問題も取り入れた国際学術会議は韓国では初めてのことで、いわゆる国際主義的な視点を取り入れた試みでした。



写真5 独立記念館と韓日民族問題学会が合同で開催した国際学術会議「解放後における関東大震災時の韓・中両国人虐殺に対する真相究明活動と展望」

2019年には、1923市民連帯を中心に海外同胞、海外在住の韓国人、強制連行で犠牲となった人たちの遺骨が埋葬されている天安市の「望郷の丘」で追悼式を開催しています。虐殺事件犠牲者の遺骨が祖国に帰ってきていないという前提で、「虐殺事件の真相究明、または犠牲者の遺骨の発掘は韓国政府の手で行われるべきである」と必要性を呼びかけました。このとき、大統領府の秘書官1名が参加し、この追悼会での主張を聞いたそうです。そして同日に、金鍾洙牧師は「これから2023年に向けて歴史館を作る」という構想を明らかにしました。

2020年から現在までの追悼活動

2020年1月23日には韓国側で合同追悼式をしてきた中心メンバー3名が、日本を訪問しました。日本側の田中正敬さん（専修大学教授）の取り計らいによるもので、まず、千葉県にある虐殺事件の現場を見学してから、同日の午後には東京の墨田区にある「ほうせんかの家」において、関東地方の活動家たちと会合をしました。この場で、金鍾洙さんが「虐殺事件100周年に際して韓国の天安市の郊外に、関東大震災時の虐殺事件の事実や資料を展示する歴史館を建てる計画を進めている」という構想を公開します。歴史館は、100周年になる2023年に正式にオープンすることを目標に進めていること、韓国で関東大震災時の虐殺事件の真相を知らせる本拠地にしたいこと、また学生向けの歴史教育の場として活用したいと考えていると伝え

ました。そして、日本の活動家の皆さんに関連資料の提供や協力をお願いしたいと要請しました。

2020年には春から韓国・日本のみならず世界中で新型コロナウイルスが蔓延したので、同年9月1日に歴史館の設立予定地である天安市郊外の建物で、合同追悼式の関係者のみで追悼会を開催しました。歴史館開設準備の一環としては、歴史館の管理運営を目的とした協同組合「記憶と平和」が設立されました。

また、「1923 ジェノサイド研究所」を創設することを公表しました。

翌2021年の9月1日には、同じく天安の歴史館建立準備会で追悼式を開催しました。その日、日本政府と韓国政府、及び韓・日の歴史学会に向けた声明を採択し、日本政府に対しては関東大震災時の朝鮮人虐殺事件の責任を認めて謝罪することを要求し、韓国政府に対しては関東大震災時の朝鮮人虐殺事件の真相究明と被害者の名誉回復のための特別法を制定することを要求。韓・日両国の歴史学会と教育界に対しては、関東大震災時の朝鮮人虐殺事件に関する研究や教育に一層力を入れるように要求しました。

次に、100周年を1年後に控えた2022年に、韓国国内でどのようなことがあったのかを紹介しましょう。7月12日ソウルのプレスセンターで、「虐殺事件100周年追悼事業推進委員会」が設立されました。その委員会には50の団体が参加しており、そのうち15団体を共同代表団体として選定しています。そこには、合同で追悼会を開いてきた団体や、2つの労働組合のナショナルセンター、学術団体、YMCAなども含まれており、民族問題研究所という市民団体や6.15共同宣言実践南側委員会も入っています。

さらに、執行委員長と事務局、そして主な事業・活動の目標を決めました。事業・活動の目標の一つは特別法制定を推進することです。また、99周年、100周年の追悼式を50の参加団体共同で主催することも決めました。加えて、関連歴史の常設展を行う歴史館を作ること、学術活動を通じて1923年の関東大震災時の虐殺事件を世界史的に位置づけすること、慰安婦問題のように関連国の研究者や活動家を中心に民間法廷を開くことなども盛り込まれました。

写真6のポスターは99周忌追悼祭のものです。ポスターには「99周忌追悼文化祭」という題が掲示されています。プログラムのなかには死者の魂を慰める舞だけでなく、合唱やフォークソング、太鼓舞などもあったため、追悼文化祭という形式にしたのです。

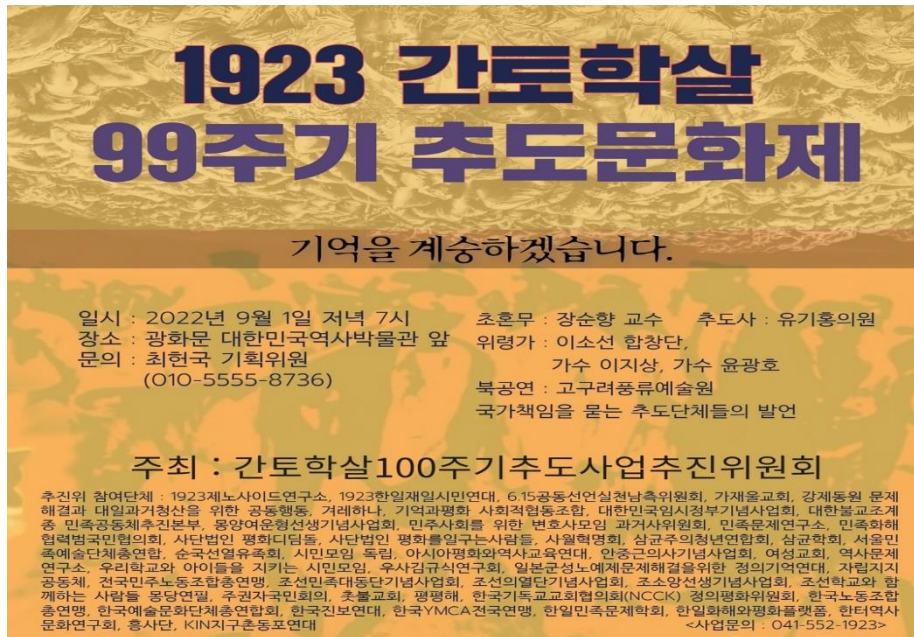


写真6 99周忌追悼祭のポスター



写真7 追悼文化祭当日の様子(1) —— 声明文を読み上げる場面



写真8 追悼文化祭当日の様子(2) ―献花の場面

韓国では労働運動団体や市民団体が野外でデモを行う際に、文化行事も取り入れることがよくあります。そのため、99 周年追悼会においても、推進委員会に参加したさまざまな団体らによる文化行事が行われました。写真7、写真8 は追悼文化祭当日の様子です。

今後の課題

追悼活動の今後の目標

100 周年事業準備委員会は「我々はこれから何をするか」というテーマをもっています。この内容は従来なかったものです。「南北含めて海外にいる全ての朝鮮民族の力を集めて、歴史の正義を実現しましょう」「南北朝鮮含めて、日本また中国とも市民連帯をして、東アジアレベルで人権と平和の価値を築こうじゃないか」を我々の要求と今後の決議としてあげました。

2018 年の独立記念館国際学術会議で初めて、中国人・日本人の虐殺事件も検証する必要があることを取り上げたと、先ほど述べましたが、その会議以来の国際主義的なスローガンが 100 周年事業準備委員会の今後の決議に入りました。この推進委員会には 1923 市民連帯のメンバーや、光化門広場で追悼会行ったメンバーからも入っています。

特別法案提出に際した記者会見

最も新しい動きとしては、2022年9月20日に韓国国会で時限立法である「関東虐殺事件の真相調査を促し被害者の名誉回復を訴える特別法」の法案提出の直前に、超党派の国会議員6名と関連市民団体、100周年事業推進委員会の代表者が集まり記者会見を開いたことです。

会見では「関東虐殺事件の真相究明をもうこれ以上あと伸ばしはできない」「韓国政府の手で真相究明する特別法を制定すべき」と主張しており、韓国のマスコミにも報道されました。

特別法による真相究明の課題

以上のように、関東各地で毎年行われて来た日本の追悼活動に比べると、時期的にはかなり遅く始まった韓国の追悼活動でしたが、日本での排外主義的なヘイト行為の高まりなど同時代の在日コリアン問題にも目配りした形で、韓国でも積極的に追悼会が行われるようになりました。ただ、今後の進め方についてはもう少し考えておくべき点があるのではないかと思います。

韓国における虐殺事件の追悼活動の特徴は、韓国社会で2000年代初めから行われてきた特別法による真相糾明作業の手法を踏襲しようとすることです。毎年の追悼会での宣言文や決議文には、特別法制定というトピックが必ず入っています。しかし、私はその特別法制定による真相糾明運動は注意することがあると思っています。

冒頭で触れたように、韓国社会では2000年代に入ってから2015年までにさまざまな形の特別法による政府傘下の委員会活動がありました。ただそのような真相糾明活動は必ずしも成功したわけではないと私は思います。特別法・時限立法による真相糾明運動においては、政府が委員会を設立し、公務員や専門家、活動家たちが協力した形で真相究明の作業をやることになりますが、結局は活動期間が短期であるために当該問題が韓国社会に教訓として根を下ろす前にその委員会は閉鎖されます。その後、当該主題は韓国社会一般から忘れられ、委員会設立以前のようにになってしまうきらいがあります。したがって、韓国で過去にあった特別法による歴史未解決問題の真相糾明作業の失敗を繰り返さないように、事前にきちんと工夫しておく必要があると思います。

以上で、私の話は終わります。

【参考文献】

* '간토 학살 억울하게 숨진 한인들 추도제 8월 서울에서 열린다', <연합뉴스> 2016.4.24.

* '6000여명 한인목숨 앓아간 관동대학살, 93년만에 공식추모 행사', <한겨레신문>
2016.8.20.

* '일본 관동대진재 학살희생자 추도식, 처음 열려', <동아일보> 2016.8.20.

* <1923년 학살당한 재일한인을 추도하는 모임> 사무국 자료

* <1923년 학살당한 재일한인을 추도하는 모임> 네이버 카페

<https://cafe.naver.com/1923#>

* '일본이 벌인 또 다른 만행, 칸토 조선인학살' <오마이뉴스> 2019.9.5.

* '칸토학살피해자 제 97주기 추도식, 혁명과 학살의 상징 아우내에서 열려' <오마이뉴스>
2020.9.3.

* <기평 미디어> <http://www.1923news.com/>

キム・グァンヨル

光云大学校国際学部教授。専攻は在日朝鮮人形成史、近現代日韓関係史。主な著作は『近現代韓日関係と在日同胞』（編・共著、ソウル大学校出版部、1999年）、『在日朝鮮人とは何か』（編・共著、サムイン、2001年）、『在外同胞史叢書10 日本韓人の歴史』（共著、国史編纂委員会、2009年）、『朝鮮人の日本移住史研究——1910年代～1940年代』（ノンヒョン、2010年）ほか。